



第 1 4 号
平成 17 年
1 月 発行

賀正

謹んで新春の

およろこびを申し上げます

平成十七年 元旦



良寛禅師に学ぶ

社会福祉法人 りんさく福祉会

理事長 須田 晃

二〇〇五年の年頭に当たりご挨拶申し上げます。本年も望洋荘を何卒宜しくお願いいたします。

さて、今回は良寛さんについてお話をさせて戴ければと思います。子供たちと鞠をつき、おはじきをして、また、かくれんぼをする良寛さんの姿を私たちは小さいときから聴かされてきました。良寛さんは、書や詩歌に優れた才能を有し、その生涯、僧であるのに僧でなく、俗人の如くで俗人でない、まさしく「半僧半俗」に徹しきった生涯であったようです。彼のことにについての文献を紐解くと、実に興味深く、また、不可思議な一生であったことが腑氣ながら理解できます。今、その生き様を考えたときに、ひよっとしたら、そこに混沌としている現代社会への『生きるヒント』が隠さ

れているのではと思えてなりません。

人間関係の難しさは、いつの時代も変わらないものです。江戸時代から今日まで、多くの人々に愛され続けている良寛禅師も対人関係を円満にするために、多くの戒めの言葉を残しています。その中のいくつかを紹介いたします。

- 一. 人と人の仲が悪くなるようなことをいう。
- 二. 人が隠していることを言う。
- 三. 傷つくようなことを言う。
- 四. 恥をかかせるようなことを言う。
- 五. 人が驚くような冗談を言う。
- 六. 見下したようなことを言う。
- 七. 戸惑わせるようなことを言う。
- 八. 怒らせるようなことを言う。
- 九. ご機嫌をとるようなことを言う。
- 十. 些細なことをとりあげて言い立てる。等々です

自分は絶対にしていないと言い切れれるでしょうか。言葉は心の表れと考えると本当に怖いことです。お互いに心したいものです。また、良寛禅師が常日頃から愛誦していた句に、『君看双眼色 不語以無憂』（君看るや双眼の色、語らざれば憂い無きに似たり）があります。良寛さんは、もともと口数の少ない人で、「黙って何も言わない自分の眼色に堪えられた悲しみが、あなたにはみえないのか。」という意です。更に、良寛禅師に、「何を学ぶと」と人間えば、「慈愛に寛容、自由と平等」の言葉が返ってきたと言われております。新年にあたり、望洋荘の職員並びに家族の皆さんにお願いがあります。長い人生において苦勞と共に喜怒哀楽を体験してきたご年輩の方々に優しい眼と言葉を向けて下さい。そして、そこから返ってくる相手の眼の輝きと言葉を見逃さないで下さい。

今は昔 第9話 『お正月の御馳走』

福島県相馬市請戸

雑煮 味は醤油。具は（里芋・人参・ごぼう（ケツペづつてササガキ）・青物）の五品入れる。肉類は元旦は食べない習慣があった餅は角切

りで焼いた。

煮がし（煮〆）具は（昆布・里芋・人参・切干し大根・ごぼう）の五品と決められていた。

酔の物

焼き魚（塩びき鮭）

長野県諏訪地方

雑煮 味は醤油。具は（葱・青物（春菊）・絹さや）肉類は入れない。餅は四角で焼いた。

昆布巻き

煮物（凍み豆腐・人参・ごぼう）

金平

煮魚 諏訪湖で取れた（ワカサギ・ハヤ・鯉・鮒・モロ（ワカサギに似た小魚）鰻など柔らかく煮る。

（『望洋荘』永崎海岸通り（T・Sさん）・豊間海岸通り（H・Kさん）から聞き取り職員がまとめました。）

『豊間保育園』の園児来荘

豊間保育園の元気な園児40名が十二月十六日に来荘、正面ホール・塩屋岬ホールでそれぞれ『よさこい』『オーレンジャー』『エアロビクス』最後に全員で『ドリフターズ』とお遊戯を披露。利用者一同の何時もとは全然違うにこやかな表情に驚かされました。（嬉しさの余り涙する方もありました）園児の元気で無邪気なエネルギーをたくさんもらい、みんな（職員を含め）元気を取り戻した様です？

※ 豊間保育園の皆さんありがとうございました。

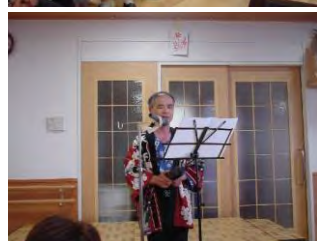
また機会があれば是非来て下さい。利用者・職員一同



歌手『高橋栄子』さん来荘

十一月二十八日（日）午後二時より、歌手の高橋栄子さんが来荘され歌を披露いただきました。高橋さんは岩手県出身ですが、東北各地の老人ホームを慰問されているという事です。

高橋さんより、『今回望洋荘でみんなの明るい笑顔に励まされ、元気をいただきました。私の大好きな歌です。声の出るかぎり頑張りたいと思っています。』と話されていました。お忙しい中ご訪問ありがとうございました。



いじくりこんにゃく
弄り蒟蒻

こんにゃく談義、こんにゃく放談

理事長 須田 晃

明けましておめでとうございます。

歳月人を待たずの辞句どおり誠に早いもので、本年、暦が還って、卯年の年男。且、開業二十年の節目の年を迎え、些か期するところはあるものの、中々重い腰が挙がらず、目の前のお神酒に只管手をのぼすだけの年初めであります。いろいろのお節料理が並んでいるも、何故か、私は蒟蒻が好物であり、酒肴にと手を伸ばしております。

この蒟蒻と申すもの、花には似ず不格好な三年目以上の芋玉が原料で、さらさらしたきれいな白い粉に精製されます。普通、食べている蒟蒻の成分は九七%が水分、残り三%の中に、炭水化物としてのグルコマンナン、僅かながら蛋白質、ミネラル、等々を有しているとのこと。この水分の中に、周りの味を取り込んで、独特の歯ざわりと風味を醸し出していると思える。食後には「腹中の砂払い」と呼ばれる如きの働きまでするのである。

小生、ダイエットの必要な体ではあるが、特段その意識で好んで蒟蒻を食しているのではない。多分に、医師として、患者さんの話を充分聞き入れ、毒索だけを上手に取り除くという能力に欠けているからせめて蒟蒻でも食って補え、との天の思し召しなのでありましょうか・・・ところが、頂けないのは、憎つくき「弄くり蒟蒻」であります。どうもこの蒟蒻には誠に辟易の呈であります。度重なる厚生省の医療費改定等により、医師は弄ばれ、形をなくしつつあるようにさえ思える。恰も、手で細かく千切ったり、捻った方が味が染み込むとばかり、これでもかとグズグズにされているようだ。蒟蒻なのか路傍の小石か見間違われないうちに、本来の医の心が発揮できる法の制定であって欲しいものである。

正月早々、愚痴を並べても栓ないことである。諺に「蒟蒻と学者は田舎が良い」という台詞がある。医師も学者の端くれとして、世俗の垢や塵に汚れ

ず、純粋な考えをもって生きて行ける田舎が宜しいとの意のようだ。又、落語のネタに「蒟蒻問答」があり、とんちんかんな問答や返事で相手を煙に巻く癖があるが、医師も訳がわからん対応で、患者を混乱に陥れているのではなからうか。年頭にあたり、地域に根ざした田舎の医師として、真摯な態度で患者に対応を図らねばとの思いを強くしている。誠に掴み所の無い話で恐縮の極みであります。これが本当の蒟蒻談義と申すのでありましょうか。皆様、良い年でありますように。

(平成十一年一号『福島県医師会報 新春随想』への寄稿文から)

『望洋荘』クリスマス会の風景

十二月二五日・二六日の二日間ユニット毎にクリスマス会を開催致しました。利用者様全員へ、サンタクロースの衣装を纏った職員からプレゼントを渡されそれぞれ満面の笑みを見せていました。

また職員より余興があり(仮装・歌・二人羽織...)特に二人羽織は、大変な大うけで、ひと足早い正月気分を満喫されました。



介護老人福祉施設 『望洋荘』 職員紹介⑭&コメント集



機能訓練士 石内 亨
(看護師)

望洋荘開設と同時に勤務し一年が過ぎました。開設当初は、入居者様の体力・身体機能が様々で対応に苦労しましたが、ようやく一人一人の把握が出来て来ました。それぞれの方々にあった訓練を行い、今残存する機能を充分に生かし、快適な生活を送って頂ける様、これからも日々努力して行きたいと思っています。

また、入居者様・ご家族の方が安心して利用して頂ける施設作りをして行きたいと思っています。

介護士 藺部 進一



年が変わり望洋荘で働き始めて半年が過ぎました。福祉の仕事は全くの初めての経験で、永崎ユニットは個性豊かな方が多く、始めはビックリする事ばかりでしたが、やっと近頃慣れて来たのかあとと思えます。しかし、まだまだ利用者様・職員の皆さんには迷惑のかげどうしの日々です。今年は少しずつでも前進出来る様、心がけて皆さんと接して行きたいと思っています。

今月の言葉その⑫ (倫理研究所編標語集から)

感謝の食卓には 無限の味覚がある

テレビを見ながら、新聞を読みながらは言語道断！ 会話のない食事ほど味気ないものはない。朝に気合いをこめて、夜は感謝でくくる、そんな食卓になればいい。

『望洋荘』に住んでみて 第一話

今月から『望洋荘』の各部門の内部の紹介をしたいと思います。ご家族さまに利用者様の生活・環境状態を少しでも伝える事が出来ればと考えました。

居室部門(ユニット) 永崎海岸通り一丁目一、二、三、五番地の四個室があり、ホールを中心にして、ほかの二、三、五丁目と命名された四居室があります。ここには十六名の方々が支援する職員とともに住んでいる共同体です。

永崎海岸通り見取り



永崎海岸通りへは、正面玄関より事務所前を左へ曲がり、医務室前を通って突き当たりのユニットです。
西側の裏山には大山祇神社があり、この季節は野鳥(ヤマガラ、シジュウカラなど)がきれいな鳴き声を奏でています。また現在さざんかの花が満開です。
五丁目からは中庭が見え、夜になるとイルミネーションがとても綺麗です。
医務室、事務室が近く、ちよくちよく遊びに行って看護師・事務職員とも仲良くしています。

○歳 平均八一歳です。
利用者数は、十六名で最老年齢九一歳 最小年齢七

利用者の皆さんは、一人々々個性的で明るくいつも笑いの絶えない方達です。個人的には、歌がとっても好きで上手な方、いつもニコニコ笑顔の素敵な方。人の話を取り返しても話したい方等々が住んでいます。

好み(食べ物・テレビ・歌)では、まんじゅうの好きな方が多いです。懐メロが好きで一人が唄うと、みんな口ず

さみ、いつの間にか懐メロ大会になってしまします。現在の話題は、新年を迎えたばかりで、年始の挨拶が中心になつています。

永崎のユニット未来図(どの様なユニットにするか)として利用者様が今以上ゆつたりと寛げて、日々楽しく過ごして戴ける。またご家族の方にも行事に参加していただける場を設けてコミュニケーションを深めて行きたいと思っています。永崎ユニットは、この一年入居者「一人一人に合ったケアを自分達であみ出す」事をモットーにして来ました。今年はおつと職員同士話し合い、個々の身体能力を活用して行きたいと、年頭にあたり誓い合いました。



ご利用者の皆さん



職員一同

ご家族様へ 『面会時の差し入れについて』

最近新聞・TV等にて、全国各地施設内で入居者の下痢・嘔吐等(ノロウイルス感染症)が報道されております。つきましては、当施設に於いても予防対策として、当面の間食料品等の差し入れ、下痢・嘔吐のある方の面会を控えさせていただきます。ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

『望洋荘』便り
平成十七年一月一日発行
発行所 いわき市 平豊間字合磯三十九番地

電話 (0246) 5517373
FAX (0246) 5517255

社会福祉法人 りんさく福祉会
介護老人福祉施設 望洋荘